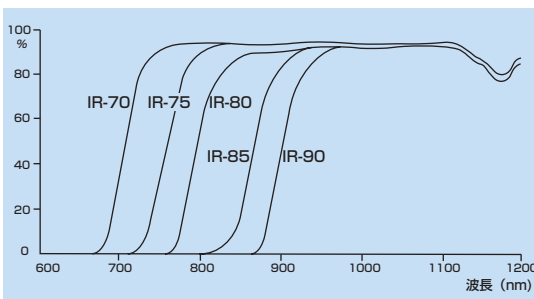


●IRフィルター（近赤外線透過・可視光カットフィルター）

ランプからの可視光をカット、近赤外光のみ透過させるメタクリル樹脂製ブラックフィルターです。
透過波長により5種類を用意しています。（注文時にはお使いのランプハウス型式をお知らせ下さい。）

赤外線透過曲線

フィルターNO	透過限界波長(nm)	T 5%(nm)	T 72%(nm)
IR-70	700	683	721
IR-75	750	740	782
IR-80	800	770	820
IR-85	850	802	902
IR-90	900	822	970



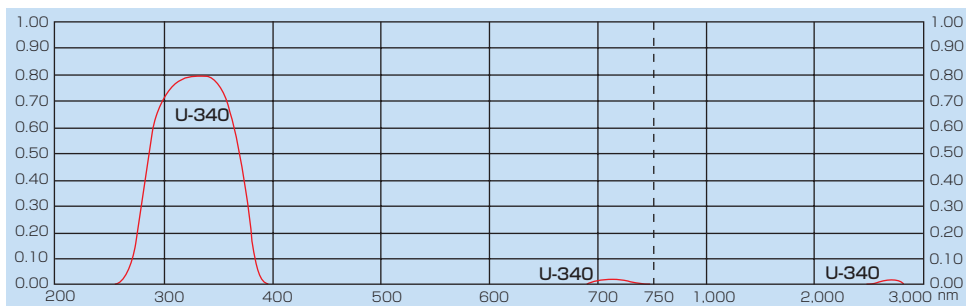
ご注文時の型式例：IR-70-LH100A（フィルターNo.+ランプハウス型式となります）

●UVフィルター（紫外線透過・可視光カットフィルター）

ランプからの可視光をカット、紫外光のみ透過させるUV透過ガラスフィルターです。
ストロボ発光のUV光源として手軽にお使いいただけます。注文時にはお使いのランプハウス型式をお知らせ下さい。

紫外線透過曲線

フィルターNO.	U-340
λ Tmax (nm)	340 ^{±5}
T max (%)	75 ^{±5}



ご注文時の型式例：U-340-LH100A（フィルターNo.+ランプハウス型式となります。）

●PLフィルター（偏光フィルター）

照明の前面に取り付けます。カメラ側にも偏光フィルターを取り付けることで画像上の照明写り込みを軽減・除去します。注文時にはお使いのランプハウス型式をお知らせ下さい。
フィルターNO. HN
ご注文時の型式例：HN-LH100A（フィルターNo.+ランプハウス型式となります）

●ミス発光検出信号出力・ストロボ発光確認信号出力

MISS OUT・FLASH OUT

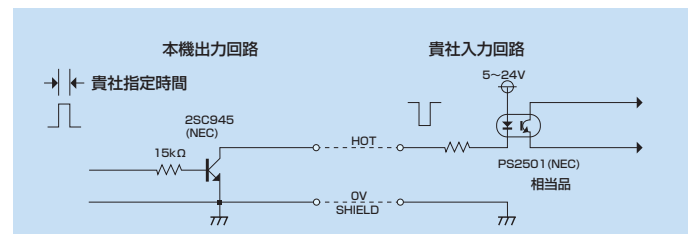
画像処理用ストロボ光源 CFシリーズ／FSシリーズには、ミス発光検出信号出力(MISS OUT)・ストロボ発光確認信号出力(FLASH OUT)の組み込みが出来ます。（新規ご注文時のオプション）
ランプ交換時期の判断や検出ミスの防止にご活用いただけます。

出力信号種類	MISS OUT	FLASH OUT
信号出力条件	1.トリガー信号入力にも関わらずストロボ発光しない時。 2.発光の立ち上がりが約1ms以上遅れて発光開始する時。	1.発光の都度、信号を出力。
出力信号形態 (ご選択下さい)	1.トランジスタ・オープンコレクタ TR=2SC945使用 MAX 40V 100mA 2.フォトカプラ・トランジスタ PC=TLP532または同等品 3.MAKE接点出力 リレー接点ON信号 電流容量 最大AC100V 1A DC30V 10mA	1.トランジスタ・オープンコレクタ TR=2SC945使用 MAX 40V 100mA 2.フォトカプラ・トランジスタ PC=TLP532または同等品
出力信号幅（ご指定下さい）	3ms～1,000ms	3.5ms±0.5ms

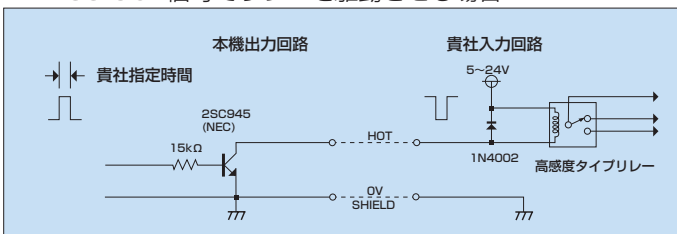
内蔵出力信号種類	ご注文型式例
ミス発光検出信号出力内蔵型	CF-〇〇S□□M CF-〇〇W□□M
ミス発光検出信号出力及び ストロボ発光確認信号出力内蔵型	CF-〇〇S□□FM CF-〇〇W□□FM

接続回路例

1.MISS OUT信号でLED駆動させる場合



2.MISS OUT信号でリレーを駆動させる場合



用語の説明&よくあるご質問

ストロボのワット数と光量

このカタログでは「ランプ入力電力〇〇J／F」「〇〇ワットのストロボ電源部」といった表記をしています。
ここでいう「ランプ入力電力」とはストロボが1回発光する毎にランプに送り込まれる電力量のことです。
また「ワット」とはその電源が単位時間あたりにランプに供給できる最大電力量を表します。
（ワットは「最大ランプ入力電力量」ともいいます。）

・ランプ入力電力

ランプ入力電力は「J/F」（ジュール・パー・フラッシュと読みます。1フラッシュあたりのランプ入力電力の意味）という単位で表記されます。
J/Fの値は次の式により導き出されます。

$$J/F = \frac{1}{2} C V^2 \quad (1 \text{ フラッシュあたりのランプ入力電力} = \text{放電用コンデンサ容量} \times \text{主放電電圧の} 2 \text{ 乗} \div 2)$$

つまり同一ランプを使用する場合、コンデンサ容量が大きくなるほど、また放電電圧が高くなるほどランプ入力電力は大きくなる＝光量が増加する（明るくなる）ということになります。

・ワット

このカタログでは「〇〇ワットのストロボ電源部」という表記をしています。
ここでいう「ワット」とはその電源が単位時間あたりにランプに供給できる最大電力量を表します。
（「最大ランプ入力電力量」ともいいます。）

この電力量は次の式により導き出されます。

$$W = J / F \times f$$

(ジュール・パー・フラッシュ)

(ワット数=1フラッシュあたりのランプ入力電力×1秒間あたりの繰り返し発光周波数)

つまり同じワット数の電源でも、
ジュール数 (J/F・1フラッシュあたりのランプ入力電力) が大きくなると1秒間あたりに繰り返し発光できる回数が少なくなる、ということです。

例として次の2つのストロボ電源 "CF-15S3"と"CF-15S15"を比較してみましょう。
これらは共に15ワットのストロボ電源部です。

型 式	CF-15S3	CF-15S15
ワット数 (=最大ランプ入力電力量)	15ワット	
最大ジュール数	5J/F	1J/F
繰り返し発光周波数	3Hz	15Hz

同じ15ワットのストロボ電源ですが、1フラッシュあたりの光量はCF-15S3型の方が明るくなります。
1秒間あたりの発光周波数は、光量が小さくなっている分、CF-15S15型の方が多くの発光回数が確保できることになります。

ランプ寿命

・寿命の定義

寿命が近くなると、トリガー信号の入力があっても発光しない現象（＝発光ミス）がでてきます。日進電子工業では「光量が初期値比70%に減少したとき」、または「発光ミスの現象が出現したとき」を「ランプ寿命」と定義しています。

・寿命までの発光回数

ランプ入力電力1J/F発光で約1×10⁸回フラッシュです。
寿命までの発光回数はランプ入力電力の大小に大きく左右されます。尚、上記数値はあくまでもこれまでの平均値・経験値によるものです。保証値ではありません。但し、寿命が極端に短い場合はご連絡ください。